



SDGs WEEk 2023

アフリカ×子ども×教育

アフリカの未来を創る

会場

西宮上ヶ原キャンパス

中央講堂 (125周年記念講堂)

日時

10月25日 (水)

10:40 ~ 13:10

入退場
自由



【I部】シンポジウム (10:40~12:20)

モデレーター 人間福祉学部長・武田丈教授

登壇者



星野紀子氏 「ブルキナファソの学校給食と教育」



永遠瑠マリルーズ氏 「ルワンダの教育と平和」



早川千晶氏 「ケニアのスラムに学校を作る

~子どもたちの命の輝き」



【II部】コンサート (12:40~13:10)

Vibes from Africa

~リズムで感じるポジティブ&パワフル・アフリカ~

ポレポレキャラバン (早川千晶&大西匡哉) によるライブ



コーディネーター 人間福祉学部社会起業学科・森重裕子助教

■ 登壇者



星野紀子氏 非営利団体ADIM代表 (ブルキナファソよりオンライン参加)

(Agence pour le Développement et l'Innovation du Monde Agricole 農業人の革新的な開発を目指す会)
誕生前に父の南アフリカ赴任が決まり、4歳までヨハネスブルクで生活。大学時代の友人が支援する東アフリカの難民キャンプなどを訪問したことをきっかけにアフリカに目覚め、青年海外協力隊としてセネガルに農業開発の一環で赴任。その後、セネガルの内戦地域で4年ほど生活。2015年にJICAブルキナファソ事務所で企画調査員(農村開発・農業)として赴任。自ら立案した大豆バリューチェーンプロジェクトに立候補し、2018年より個別専門家デビュー。しかし、予算の関係でわずか1年3か月でプロジェクトが継続できなくなり、現在はブルキナファソで非営利団体を設立し、大豆の学校菜園プロジェクトを行っている。日本では学校に毎日給食があるのは当たり前なのに、ブルキナファソでは国が支援してくれる3か月以外は多くの学校が給食を運営できず、学校に行かなくなる子供たちが多いことから、大豆を保護者と一緒に校庭(学校菜園)で育てて給食に活かす「あげない給食」を実践中。

永遠瑠マリルーズ氏 NPO法人ルワンダの教育を考える会理事長

1965年 ルワンダ人の父親の赴任先であるコンゴ民主共和国に生まれる。1993年 青年海外協力隊カウンターパートナーとして福島文化学園にて洋裁の研修を受ける。翌1994年 ルワンダへ帰国直後に内戦からツチ族に対するジェノサイドが起き、子ども3人を連れて隣国のコンゴ民主共和国へ逃れる。難民キャンプで偶然出会ったNPO法人アムダの日本人医師の通訳となり、同年末に研修生時代の友人らの尽力で家族そろって再来日。2000年「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、キガリ市内に学校を設立。以来、命の尊さ、教育の大切さを訴える活動を続けている。

早川千晶氏 マゴソスクール主宰/ ポレポレキャラバン

ケニア在住35年。大学生のときに世界放浪の旅に出発。世界各国を旅し、そのまま日本に帰らずケニアに定住。撮影コーディネーター、ライター、通訳、「アフリカを深く知る旅」案内人。マサイ民族とドゥルマ民族の村でホームステイ&伝統文化体験のエコツアー、キベラスラムのスタディツアーなども手掛け、アフリカ理解と国際交流を促進している。東アフリカ最大の貧困地区キベラスラムで孤児や困窮児童のための学校「マゴソスクール」、モンバサ近郊のミリティーニ村で「ジュンバ・ラ・ワトト」(子どもの家)、高校生・大学生のための奨学金グループ「マゴソOBOGクラブ」、障害児の特別学級、スラム貧困者の生活改善支援、スラムの若者たちのエンパワーメント「MCC-Magoso Community Center」などを設立運営。

大西匡哉氏 ドゥルマ伝統音楽継承者/ ポレポレキャラバン

ミュージシャン。ケニアのドゥルマ民族の村で、伝統文化継承者スワレ・マテラ・マサイ氏に師事し、8年間に渡るケニア音楽修行を終え2013年帰国。ドゥルマ民族の伝統打楽器「ツゴマ・ツネ」に独自の楽器を加えたセットや、アフリカンスタイルを取り入れたアコースティックギターなどで、オリジナリティ溢れるライブを展開している。2014年、ソロアルバム『Tuvute Pamela~みんなで引っ張ろう!』をリリース。2016年、ブルキナファソ出身のミュージシャン、Benoit Millogo氏、山北紀彦氏とともに、BALANGOMA結成。2017年、『Yiriba~大きな樹』をリリース。2018年、ドゥルマ民族の伝統音楽センゲーニャの継承者・14名の旗持の1人として正式に就任。Sengenya Japan代表。